

よき人



明るい家庭・地域づくり推進大会 愛荘エデュケーション・アワード

11月3日（日）に、秦荘ハーティセンター大ホールにて、「明るい家庭・地域づくり推進大会 愛荘エデュケーション・アワード」が開催され、本校は、6年生の「個性を生かした教え隊活動～あこがれの6年生、輝く6年生になろう～」と、教職員の「WE TOUCH THE FUTUREを合言葉にして学び続ける教職員」を評価いただき、2つの受賞となりました。

大会の後半は、各校の代表者による作文発表が行われ、本校は、6年生の児童が心温まる作文を発表してくれました。



私を成長させてくれる家族

私は、毎日の家族との生活の中で、支えられていると感じることや、家族の行動や言葉から学ぶことがたくさんあります。

私の家族は、仕事で疲れていても、いつも笑顔で帰ってきます。なぜ、みんなが笑顔で帰ってくるのだろうと思い、いくつか理由を考えてみました。家が好きなから、犬がお出迎えしてくれることが嬉しいから、もしかすると、私がいるからかもしれないとも思いました。いろいろな理由を考えましたが、答えは分かりませんでした。しかし、笑顔について少し気になったので、調べてみました。すると、人は無意識のうちに人の顔に敏感に反応しているということが分かりました。もし、相手が悲しい顔や怒った顔をしていると私の気分も沈んでしまいます。相手が楽しそうな顔をしていると、私も心が軽くなります。だから、私は、自分が笑顔でいることで、周りの人たちを笑顔にしたり、楽しい気持ちにしたりすることができると気づきました。だから、私はどんな時も笑顔で過ごすことを心がけたいと思いました。

また、私の家族には、真似をしたいと思うところがたくさんあります。私が学校から疲れて帰ってきてても、面白い話をしたり、おいしいご飯を作ってくれたりして私を元気にしてくれます。家族といることが私の安心につながっているのだと感じます。そして、私が家族のみんなをすごいと感じるのは、どんなに忙しくても、自分よりほかの人のことを優先するところです。お母さんは、宿題がわからず困っている私を見ると、晩御飯を作っている途中でも、手を止めて優しく教えてくれます。私も、自分より周りの人のことを優先したり、大切にしたりできるようにになりたいと思いました。時には、けんかをするこやイライラすることもありますが、しかし、どんなことがあっても、最後には、自分を振り返り、直そうと気をつけているのが伝わってきます。失敗したり、間違えたりしても次に生かして成長していけばよいのだと気づかせてくれました。

私の家族には、優しく尊敬できるところがたくさんあります。そんな家族と一緒に過ごせることを、幸せに思っています。これからも、家族みんなで楽しく、支え合いながら成長していきたいです。

校内人権週間

11月8日から校内人権週間がスタートしました。朝の放送では、人権教育主任が人権についての話をし、3・4校時には、体育館にて「人権コンサート」を開催しました。今年度は、土山より「ケール」さんに来校いただきました。二胡とギターによる音楽と人権トークに、会場にいた全校児童、教職員、そして、参加いただきました保護者様、PTA人権教育推進部の皆様が魅了され、心が癒やされました。ケールさん、素敵な音楽とトークをありがとうございました。



コンサート



お礼の言葉



花束贈呈

校長先生から「言葉の力」についてお話をしたいと思います。

先生は、大谷翔平選手のことを大好きで、これまでも、いろいろな話をしてきました。大谷選手は、素晴らしい野球選手ですが、読書家でもあります。いろいろなジャンルの本を読むそうですが、中でも、中村天風さんの本を繰り返し読み、その考え方にとても影響を受けたと聞いています。

そこで、校長先生も入門編として、小学生にもわかる漫画形式になっている本を買って読んでみました。なるほど、なるほどと考えさせられることもありました。特に、印象に残ったのは、「言葉と人生」について中村天風さんの考え方が書いてあるところです。

言葉の力は、絶大である。

人の心は、言葉に影響を受けるようにできている。

自分が話した言葉によって、感情が生まれ、さらにその感情から言葉が生まれる。

そうやって、だんだんと自分(の人生)がつくられていく。

しかも、言葉は、相手にも絶大な影響を与える。

だからこそ、自分にとっても、相手にとっても心地よく感じる言葉を使っていけないといけない。

さて、皆さんにとって、心地よい言葉、人に対してどんどん使っていきたい言葉とは、どんな言葉ですか？

では、それとは反対に、人に対して絶対に使ってはいけない言葉は、わかりますか？

「死ぬ」「殺す」・・・ほんとうに怖い言葉です。この言葉で、本当に亡くなる人もいます。相手の命を奪う言葉は、絶対に使ってはいけません。そして、それを話した人も、自分の脳が聞いているのです。自分も傷つけているのです。

この愛知川小学校のめあては、「自分を大切にする 人を大切にする 心豊かで たくましい子」です。この人権週間をきっかけに、校長先生も自分の使っている言葉を振り返り、自分も人も大切にすることについて考えていきたいと思えます。

この後、これから、ケールさんの素晴らしい音楽を聴きますが、歌は、素敵な言葉に素敵な音・メロディーがプラスされます。みなさんの心にしっかりと届くのではないのでしょうか。

人権コンサートでの校長講話

